

## 選定理由【国語】

国語においては、東京書籍、教育出版、光村図書出版の3者について検討を加えた。

各者とも、学習指導要領「小学校国語」の目標である「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを旨とする」ことや、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の児童の実態は、よさとして、読書が好きな児童や、読書習慣が身に付いている児童が多く、ICTを活用することで、話すこと・聞くことの基礎・基本やローマ字の習得へとつながってきている。

しかし、課題として、「書くこと」に苦手意識をもっている児童が多く、特に条件付きの作文問題があると立ち止まって先に進めなくなることで、理由や根拠を明確にして話したり、友達の意見に対して付け加えたり、反論したりすることに課題が見られるといった報告が専門委員よりあった。

本地区の児童の課題を解決する観点から協議した結果、条件に基づいて自分の考えをまとめる力や進んで自分の考えを伝える力を養うために、「書くこと」「話すこと」に関することについて、物語の続きを想像して書いたり、自分の興味があるものについて理由を含めて話したりするなどの工夫が、光村図書出版の教科用図書に見られたため、本採択地区協議会においては、光村図書出版の教科用図書が適切であると選定した。

なお、光村図書出版の教科用図書の特徴は、次のような点である。

(1) 教科目標を達成するために、各学年に、読書活動「本は友達」、言語の特質や運用「言葉について考えよう」などの特設単元を設け、学習したことの日常化を図る工夫が見られる。

(2) 内容や指導の充実については、主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各単元に「問いをもとう」が設定され、児童が単元で学ぶことを自分事としてとらえて学びを進められるような工夫が見られる。

地域の実態から、条件に基づいて自分の考えをまとめる力や進んで自分の考えを伝える力を養うために、「書くこと」「話すこと」に関することについて、物語の続きを想像して書いたり、自分の興味があるものについて理由を含めて話したりするなど、単元のまとめる段階で書く活動や伝える活動ができるような工夫が見られる。

(3) 利便性の向上については、巻頭にブックインブックの形式で、当該学年と前学年の学習内容が示されており、児童がこれからの学習にどのように生かしていくかを考えることができるような工夫が見られる。

## 選定理由【書写】

書写においては、東京書籍、教育出版、光村図書出版の3者について検討を加えた。

各者とも、学習指導要領「小学校国語」の書写の内容の取扱いに示してある「文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること」や、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の児童の実態は、よさとして、正しい筆記用具や筆の持ち方、書く時の姿勢を理解している児童が多い。

しかし、課題として、日常のあらゆる書く場面において、文字の筆順や運筆に誤りがあったり、文字の形を整えることを意識していなかったりするとの報告が専門委員よりあった。

本地区の児童の課題を解決する観点から協議した結果、筆順や運筆に気を付け、整った文字を日常的に書けるようにするために、「書写広げたい」で横書きのお礼状や見やすい連絡帳を書く場面で意識できるような工夫が、光村図書出版の教科用図書に見られたため、本採択地区協議会においては、光村図書出版の教科用図書が適切であると選定した。

なお、光村図書出版の教科用図書の特徴は、次のような点である。

- (1) 教科目標を達成するために、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3段階の学習過程とされており、「たいせつ」で学習のポイントを具体的な説明やイラスト等で視覚的に示し、学習内容を自分で確かめることができるような工夫が見られる。
- (2) 内容や指導の充実については、主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入で、整った文字を書くためのポイントを個人で考えたり、グループで話し合ったりする活動を取り入れた後に学習を進めることができるような工夫が見られる。  
地域の実態から、筆順や運筆に気を付け、整った文字を日常的に書けるようにするために、「書写広げたい」で横書きのお礼状や見やすい連絡帳を書く場面で意識できるような工夫が見られる。
- (3) 利便性の向上については、朱墨で筆順が分かるものや、学習の参考となる豊富な資料や硬筆欄を掲載することで、児童の関心・意欲に応じて学習に取り組むことができるような工夫が見られる。

## 選定理由【社会】

社会において、東京書籍、教育出版、日本文教出版の3者について検討を加えた。

各者とも、学習指導要領「小学校社会科」の目標である「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す」ことや、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の児童の実態は、よさとして、素直で純朴な児童が多く、社会科の学習に対してまじめに、真剣に取り組むことができる。

しかし、課題として、資料から読み取った情報を比較したり関連付けたりして、社会的事象の特徴等を考え、表現する力を高める必要があること、また、社会的事象の意味を多角的・多面的に捉え、議論するなど学び合いを通して考えを深めたり、広げたりする力の育成が必要であるとの報告が専門委員よりあった。

児童の課題を解決する観点から協議した結果、現代的な諸課題について地域の対応や取組を紹介したりすることで、子どもが課題を自分ごととして捉え、主体的な学びができるような工夫が、日本文教出版の教科用図書に見られたため、本採択地区協議会においては、日本文教出版の教科用図書が適切であると選定した。

なお、日本文教出版の教科用図書の特徴は、次のような点である。

- (1) 構成・配列については、各学年の最初に「社会科の学習の進め方」のページを設け、課題追究を主とした問題解決的な学習の流れの図を例示したり、随所に「学び方・調べ方コーナー」を示したりすることで、問題解決に向けた学習に必要な知識・技能の習得ができるように工夫されている。
- (2) 内容や指導の充実については、児童が互いに話し合い、多面的に考えたり理解したりできるよう「深め合い」活動のコーナーが提示され、社会との関わり方を選択・判断しながら、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。  
単元の末尾に「未来につなげる」のコーナーを設け、児童が課題意識をもった内容をさらに追究していく活動を提示することで、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるような工夫が見られる。  
地域の実態から、「考えよう！SDGs」欄を随所に設けたり、SDGsと関連のある現代的な諸課題について地域の対応や取組を紹介したりすることで、子どもが課題を自分ごととして捉え、主体的な学びができるような工夫が見られる。
- (3) 利便性については、「教科書デジタルコンテンツ」が随所に配置してあり、学習に役立つ動画や画像、スライドショーなどにアクセスでき、学習を深めることができる工夫が見られる。

## 選定理由【地図】

地図においては、東京書籍、帝国書院の2者について検討を加えた。

各者とも、学習指導要領「小学校社会科」の内容の取扱いに示してある「我が国の47都道府県の名称と位置、世界の大陸と主な海洋の名称と位置については、学習内容と関連付けながら、その都度、地図帳や地球儀などを使って確認するなどして、小学校卒業までに身に付け活用できるように工夫して指導する」ことや、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の児童の実態は、よさとして、素直で純朴な児童が多く、社会科の学習に対してまじめに、真剣に取り組むことができる。

しかし、課題として、資料から読み取った情報を比較したり関連付けたりして、社会的事象の特徴等を考え、表現する力を高める必要があること、また、社会的事象の意味を多角的・多面的に捉え、議論するなど学び合いを通して考えを深めたり、広げたりする力の育成が必要であるとの報告が専門委員よりあった。

本地区の児童の課題を解決する観点から協議した結果、細かな資料を厳選して見やすく配置し、複数の資料を関連付け、社会的な見方・考え方を働かせながら思考させるための構成の工夫、「世界のSDGs」により、社会的な事象に関する興味や関心を高め、主体的な学びにつながる工夫が、帝国書院の教科用図書に見られたため、本採択地区協議会においては、帝国書院の教科用図書が適切であると選定した。

なお、帝国書院の教科用図書の特徴は、次のような点である。

(1) 構成・配列については、社会科の目標を達成するために、「3年生の学習」のページを特設し、写真やイラストを多く活用しながら地図学習の基礎の定着を図ることができるような配列の工夫が見られる。

また、資料図では、細かな資料を厳選して見やすく配置することで、複数の資料を関連付けて、社会的な見方・考え方を働かせながら思考させるための構成の工夫が見られる。

(2) 内容や指導の充実については、多様な資料及び学習に役立つサイトのリンク集や、タブレット端末をタップすることで調べたい視点での切替えができる地図をまとめた二次元コードを設置するなど、地図活用の意欲を喚起したり、児童の思考を促したりして、主体的・対話的で深い学びを展開できるような工夫が見られる。

地域の実態から、「世界のSDGs」により、社会的な事象に関する興味や関心を高め、主体的な学びにつながる工夫が見られる。

(3) 利便性の向上については、資料掲載は、「日本の産業」において、グラフや図を精選し、地図を大きく掲載することで、児童が生産量の変化や地域の特性に気付いたり、理解を深めたりできるような工夫が見られる。

## 選定理由【算数】

算数においては、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館、日本文教出版の6者について検討を加えた。

各者とも、学習指導要領「小学校算数科」の目標である「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す」ことや、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の児童の実態は、よさとして、教え合い・学び合いによく取り組み、学ぶ意欲が高いことやICTを活用した学習に意欲的に取り組むことができる。

しかし、課題として、活用問題、記述式問題や思考力を問う問題は苦手で、すぐに諦めてしまう。また、個人差が大きいという報告が専門委員からあった。

本地区の児童の課題を解決する観点から協議した結果、記述式問題、思考力を問う問題について、単元毎に「学びを生かそう」を設けるとともに、「見方・考え方を深めよう」を設け、筋道を立てて考え、論理的な思考力を高めるような工夫が、新興出版社啓林館の教科用図書に見られたため、本採択地区協議会においては、新興出版社啓林館の教科用図書が適切であると選定した。

なお、新興出版社啓林館の教科用図書の特徴は、次のような点である。

- (1) 算数科の目標を達成するために、習熟度に応じた「もっと練習」や単元末の「学びのまとめ」等で学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、児童が苦手としやすい単元を分割して配置し、年間を通して定着が図られるようにするなど、スパイラルを意識した構成・配列の工夫がされている。
  - (2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、めあてにつながる問いや気づきを掲載して主体性をもち、その後の学び合いで深めたいポイントを見える化するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。また、巻末に「もっと練習」を設定し、補充問題や挑戦問題を用意して、習熟度別学習にも対応できるようにするなど、確実に「知識・技能」を習得できるような工夫がされている。さらに、学びを整理し深めるノート指導に関して、2学年から「算数ノートをつくろう」を設け、振り返りに役立つポイントを示したノート例を掲載し、今後の学習につながる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫がされている。
- 地域の実態から、記述式問題、思考力を問う問題について、単元毎に「学びを生かそう」を設けるとともに、「見方・考え方を深めよう」を設け、筋道を立てて考え、論理的な思考力を高めるような工夫が見られる。
- (3) 児童にとって分かりやすくするために、1単位時間の学習内容をページ末で区切り、「めあて」と「まとめ」を明記するとともに、「数学的な考え方」を明確化して掲載することで、児童が主体的に学習に取り組み、対話的な学びが充実するように配慮されている。

## 選定理由【理科】

理科においては、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館の5者について検討を加えた。

各者とも、学習指導要領「小学校理科」の目標である「自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することを目指す」ことや、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の児童の実態は、よさとして、観察や実験に意欲的に取り組むことができ、ICTを用いての学習に対する関心や意欲が高い。

しかし、課題として実験は意欲的に行うが、それが知識・技能として定着していない児童も見られ、観察や実験の結果を共有する話合いに比べ、根拠を示しながら話合いをすることが難しく、記述式の問題への抵抗を感じている児童が多いとの報告が専門委員よりあった。

本地区の児童の課題を解決する観点から協議した結果、記述式の問題への対応について、単元末の「確かめよう」で、これまで学んだことを使って説明させるような問題を設定し、記述させることで、単元で学んだことを確認できるような工夫が教育出版の教科用図書に見られたため、本採択地区協議会においては、教育出版の教科用図書が適切であると選定した。

なお、教育出版の教科用図書の特徴は、次のような点である。

- (1) 単元の導入では「学習のつながり」を設け、各学年間の関連する既習単元や発展単元を中学校まで示し、学習の系統が意識できるように工夫されている。また、「〇年のチカラ」を設定し、その学年で主に育成する問題解決の力を児童が意識しながら、学習することができるような工夫が見られる。
- (2) 「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」を設け、考え方を話型で示したり、児童の発言例に「見方のカギ」「考え方のカギ」のマークを付けたりすることで、理科の見方・考え方を働かせながら、主体的・対話的で深い学びができるような工夫が見られる。  
第4～6学年の巻頭に、「〇年で学んだこと」を設けたり、「確かめよう」では関連するページの該当箇所を具体的に示したりすることで、生きて働く「知識・技能」の定着を図ることができるような工夫が見られる。  
地域の実態から、記述式の問題への対応について、単元末の「確かめよう」で、これまで学んだことを使って説明させるような問題を設定し、記述させることで、単元で学んだことを確認できるような工夫が見られる。
- (3) 単元ごとに学習者のモデルが設定されており、児童が主人公と自分を重ね合わせながら、学んでいく過程を通して、問題を科学的に解決していく力を自然に身に付けられる工夫が見られる。

## 選定理由【生活】

生活においては、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、光村図書出版、新興出版社啓林館の6者について検討を加えた。

各者とも、学習指導要領「小学校生活科」の目標である「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し、生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指す」ことや、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の児童の実態は、よさとして、自然環境や協力的な地域の人に恵まれているため、それらとの関りをもちやすく、それらとの体験や活動を通して、様々な気づきを得ることができ、身近な自然への興味・関心が高く自然の大切さや自分との関わりについて理解している児童が多い。

しかし、課題として、学校区によって公共施設等に差があるため、公共マナー等の体験を通して、生活上必要な習慣や技能の習得に地域差がある。また、自分自身や自分の生活について考えたことを、他者と伝え合うなどして表現することが苦手な児童が多く、学習したことをもとに、身近な自然・人・社会に自ら働きかけ、自信をもって新たなことに挑戦しようとする態度を育むための機会をさらに工夫する必要があるとの報告が専門委員よりあった。

本地区の児童の課題を解決する観点から協議した結果、知識及び技能の習得に関して、公共施設や街の様子イラスト、公共のマナーや安全に関することがまとめられた「やくそく」コーナーを設定するなど、生活上必要な習慣や技能を身に付けることができる工夫が東京書籍に見られたため、本採択地区協議会においては、東京書籍の教科用図書が適切であると選定した。

なお、東京書籍の教科用図書の特徴は、次のような点である。

- (1) 季節を取り扱う単元では、「夏」「秋」「冬」「春」で構成され、「春」においては、自然だけでなく季節による人々の生活の様子や暮らしの変化に目を向けさせ、自分自身や自分の生活について考えられるような配列の工夫が見られる。
- (2) 紙面下段の「学びをふかめる」コーナー、学習活動や思考の流れを示した「学びのプロセス」の例示など、児童の気づきの質を高める工夫が見られる。  
また、地域の実態から、知識及び技能の習得に関して、公共施設や街の様子イラスト、公共のマナーや安全に関することがまとめられた「やくそく」コーナーを設定するなど、生活上必要な習慣や技能を身に付けることができる工夫が見られる。
- (3) 実物大植物を掲載した「いきものずかん」と二次元コード「デジタルいきものずかん」など、具体的な例示や資料を随所に設け、児童の学びを深めたり、利便性を高めたりする工夫が見られる。

## 選定理由【音楽】

音楽においては、教育出版、教育芸術社の2者について検討を加えた。

各者とも、学習指導要領「小学校音楽科」の目標である「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」ことや、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の児童の実態は、よさとして、音楽に興味・関心が高く、意欲的に音楽活動を楽しむことができ、グループで一緒に演奏したり、協力して音楽を作ったりすることに喜びを感じながら学習することができる。

しかし、課題として地域的に音楽にふれる環境が、他地域に比べ少なく、児童自身の音楽経験も少ない。また、鑑賞において音楽の要素と聴き取ったことの関わりについて考えたり表現したりできるように指導する際に、児童の語彙力や文章表現力が伴わず、低学年からの積み上げの必要性を感じるとの報告が専門委員よりあった。

本地区の児童の課題を解決する観点から協議した結果、鑑賞の学習活動の時に感じ取ったことを表現することができるように、2年生以上に「音楽を表すいろいろな言葉」を活用できる工夫が、教育出版の教科用図書に見られたため、本採択地区協議会においては、教育出版の教科用図書が適切であると選定した。

なお、教育出版の教科用図書の特徴は、次のような点である。

- (1) 各学校の特色や児童の実態に応じて音楽を楽しんだり親しんだりできるように、主要部分の教材と選択可能なオプション部分を組み合わせることができるように配慮されている。また、「音楽的な見方・考え方」を働かせながら資質・能力を育むことができるように題材が構成されている。題材によっては、表現教材と鑑賞教材を関連させて学習するものや、学びの中で身に付けた内容を次の題材で生かすことができるように設定されており、学習がより深まるように工夫されている。
- (2) 音楽的な「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「思考力・判断力・表現力等」の育成を意識した発問例が「まなびナビ」に示されたり、グループ活動時の会話を想定した吹き出しが例示されたりしている。また、児童がワークシート等の資料を二次元コードで読み取る「まなびリンク」が示されるなど、児童が思いや意図を生かして表現したり、音楽の魅力を感じ取ったりできるような工夫が見られる。

地域の実態から、鑑賞の学習活動の時に感じ取ったことを表現することができるように、2年生以上に「音楽を表すいろいろな言葉」を活用できるように工夫されている。

- (3) 楽譜については、絵や図での楽譜から五線譜に移行したり、旋律の動きを捉えるためのアニメーション動画が視聴できたり、発達の段階に応じて分かりやすく学べるように工夫されている。初めて階名や音符等を学ぶ第3学年では、「楽ふのお話」として1ページに音符と休符、五線、小節についてまとめてあり、それ以降の学習でもこのページで振り返ることができるように工夫されている。音程を分かりやすく学ぶために、第1学年では音の高さに合わせて体を動かす活動が設定されており、児童が感覚的に音の高さを理解できるように工夫されている。



## 選定理由【図画工作】

図画工作においては、開隆堂出版、日本文教出版の2者について検討を加えた。

各者とも、学習指導要領「小学校図画工作科」の目標である「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」ことや、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の児童の実態は、よさとして、図画工作科の学習に興味・関心が高く、素直で真面目な学習態度で、学んだことを生かし進んで創作活動に取り組むことができ、構図など原則にとらわれず、明るくのびのびと大胆に表現することができる。

しかし、課題として発想段階でイメージすることを苦手とする児童が多く、教師の意見を聞きながら慎重に制作しようとする児童も見られる。また、友達の作品を鑑賞する中で、自分の見方や感じ方を広げるまでには至っていないとの報告が専門委員よりあった。

本地区の児童の課題を解決する観点から協議した結果、各題材の完成作品を二次元コードで鑑賞することができ、示されている子どもらしい多様な作品から、児童の発想を広げられるような工夫、鑑賞する際の視点として制作過程における児童の感想やつぶやきが記されており、自分の見方や考え方を広げることができる工夫が、日本文教出版の教科用図書に見られたため、本採択地区協議会においては、日本文教出版の教科用図書が適切であると選定した。

なお、日本文教出版の教科用図書の特徴は、次のような点である。

- (1) 発達の段階をもとに題材が配列されているのに加え、教科横断的な視点で学習を進めたり、一つの題材の中で表現と鑑賞の活動を共に関連させたりしながら活動できる工夫も見られる。また、学習指導要領における〔共通事項〕を意識しながら、身近なものから諸外国の美術作品まで、多様な形や色に出会うことができる題材が配列されている。
- (2) 場所や材料から感じたり発想したりしたことを進んで表現できるよう児童同士で思ったことや試したことが示されているとともに、児童の参考作品が多く掲載されている。また、表現や鑑賞の活動を通して、友だちと話し合ったり協働したりする様子が紹介され「主体的・対話的で深い学び」を展開するための工夫が見られる。

地域の実態から、各題材の完成作品を二次元コードで鑑賞することができるようになっており、示されている子どもらしい多様な作品から、児童の発想を広げられるような工夫が見られる。また、鑑賞する際の視点として、制作過程における児童の感想やつぶやきが記されており、自分の見方や考え方を広げることができる工夫が見られる。
- (3) 学習のめあてがピクトグラムで示されている。題材の示し方は「めあてのヒント」と「鑑賞のヒント」を児童の思考に沿って示すとともに、写真とも関連付けている。二次元コードでは、用具の使い方、作品の作り方を確認でき、紙面でも図や写真を示し、児童が多様な手段で活動に取り組みやすい工夫が見られる。

## 選定理由【家庭】

家庭においては、東京書籍、開隆堂出版の2者について検討を加えた。

各者とも、学習指導要領「小学校家庭科」の目標である「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指す」ことや、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の児童の実態は、よさとして学校の「食育活動」や「弁当の日」などの関心は高く、家庭科学習に意欲的に取り組んでいる。

しかし、課題として調理や洗濯などの手伝いの有無が家庭科学習の知識や技能を習得するときの個人差として表れている。家庭内での実践が乏しく、「金銭教育」や「洗濯マーク」などの実生活に必要な知識や活用する力は不十分であるとの報告が専門委員よりあった。

本地区の児童の課題を解決する観点から協議した結果、個人の経験の違いによる到達度の差を解消するために「いつもたしかめよう」で作業手順を明確にイメージしやすくするなどの手立てが見られ、各単元の終末に家庭へ持ち帰って実践する機会の「深めよう」が意図的に設定され、どの児童にも取り組みやすい工夫が、東京書籍の教科用図書に見られたため、本採択地区協議会においては、東京書籍の教科用図書が適切であると選定した。

なお、東京書籍の教科用図書の特徴は、次のような点である。

- (1) 家庭科の目標を達成するために、基礎的・基本的な内容の習得から応用・発展的な学習へと、児童の発達の段階に応じて、系統的に構成されている。また、基礎的な知識や技能は5学年で多く学び、6学年で再度学習することで、より確実な定着を図るようにしている。さらに、各題材の振り返りや各学年末の「まとめ」を設定することで、自分の成長を実感できるような工夫が見られる。
- (2) 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるための工夫については、各題材の最初に「家庭科の窓」を設けて、生活の営みに係る見方・考え方の視点を意識して学習が進められるようになっていく。また、日常生活に必要な知識・技能を「いつも確かめよう」で示し、確認したり、振り返ったりしながら学べるようになっていく。さらに、生活をよりよくしようとする実践的な態度を養うために、実践の進め方や実践の例を示した「生活を変えるチャンス！」やSDGsの観点から「プロに聞く！」が設定され、学びを人生や社会に生かせるような工夫が見られる。

地域の実態から、個人の経験の違いによる到達度の差を解消するために「いつもたしかめよう」で作業手順を明確にイメージしやすくするなどの手立てが見られる。また、各単元の終末に家庭へ持ち帰って実践する機会の「深めよう」が意図的に設定され、どの児童も取り組みやすい工夫が見られる。
- (3) 学習効果や使用上の利便性については、キャラクターが学習のポイントを具体的に示しており、児童の学習意欲を高めるように工夫が見られる。また、衛生・安全の特設ページや、安全・環境・防災のマークとチェック欄の設定により、児童が安全や環境、防災について意識して学習できるようになっている。手をのせて練習できる実寸大の写真の表示や豊富な動画コンテンツ等によって、効果的に学習を進めることができるように工夫が見られる。また、「消費生活・環境」の内容を5学年の早い段階で学習したり、SDGsに関するページを設けたりすることで、持続可能な社会をつくる消費者としての知識や技能を身に付けるような工夫が見られる。

## 選定理由【保健】

保健においては、東京書籍、大日本図書、大修館書店、文教社、光文書院、学研教育みらいの6者について検討を加えた。

各者とも、学習指導要領「小学校体育科（保健領域）」の目標である「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す」ことや、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の児童の実態は、よさとして自分の生活や健康に関心をもち、意欲的に学び合うことができ、デジタル教材等を活用することで、視覚的に理解し、集中して取り組める傾向がある。

しかし、課題として規則正しい生活を送ったり、意欲的に運動したりすることにおいて個人差があり、知識として学んだことを自分の実践に生かしたり、習慣として持続したりするところが十分にできていないとの報告が専門委員よりあった。

本地区の児童の課題を解決する観点から協議した結果、「まとめる・生かす」においてこれから実践したいことを記述できるとともに、さらに資料「スキル」で学習を深められるような工夫が、東京書籍の教科用図書に見られたため、本採択地区協議会においては、東京書籍の教科用図書が適切であると選定した。

なお、東京書籍の教科用図書の特徴は、次のような点である。

- (1) 学習指導要領に即した系統的かつ問題解決的な単元の配列及び構成となっており、「調べる・解決する」「深める・伝える」の活動や動画等の掲載により、児童の身近な生活と関連付け、主体的・対話的で深い学びを通して、生涯にわたり心身の健康の保持増進に必要な資質・能力を育成する工夫がなされている。
- (2) 「知識」や「技能」を習得するため、一単位時間に振り返りを設けたり、不安や悩みへの対処やけがの手当の仕方をイラストや動画等で確認したりするなど、学習の定着や実践化を促している。また、課題を見付け、自分の考えを整理するための視点に沿って記述し、説明する場面を位置付けるなど、「思考力・判断力・表現力等」を育成するような工夫がなされている。

また、地域の実態から、「まとめる・生かす」においてこれから実践したいことを記述できるとともに、さらに資料「スキル」で学習を深められるような工夫が見られる。
- (3) ステップごとの4ページ構成のためイラストや写真等を大きく掲載したり、記述欄を設けたりすることで、課題を自ら見付け、主体的に学び、思考することができるような作りになっている。

## 選定理由【外国語】

英語においては、東京書籍、開隆堂出版、三省堂、教育出版、光村図書出版、新興出版社啓林館の6者について検討を加えた。

各者とも、学習指導要領「小学校外国語」の目標である「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指す」ことや、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の児童の実態は、よさとしてデジタル教材やA L Tの活用などから、写真や絵と英語の音声を結びつけたり、大まかな話の内容を推測したりする力は向上してきており、ペアやグループで話す場面では、進んで話したりやり取りしたりするなど、意欲的に取り組んでいる。

しかし、課題として目的や場面、状況に応じたやり取りがある。例文を参考にしながら、自分のことに置き換えてコミュニケーションをしようとする姿は見られるものの、既習の言語材料を生かしたやり取りが難しく、学習意欲に差があり、「英語が分からない、どのように言えばよいか分からない。」など苦手意識をもっている児童が多いとの報告が専門委員からあった。

本地区の児童の課題を解決する観点から協議した結果、目的や場面、状況などに応じたやり取りについて、各活動の目的を明確に示したり、具体的な表現例を記載したりすることで、自分の考えや気持ちなどを伝え合う児童を育成できるような工夫が、開隆堂出版の教科用図書に見られたため、本採択地区協議会においては、開隆堂出版の教科用図書が適切であると選定した。

なお、開隆堂出版の教科用図書の特徴は、次のような点である。

- (1) 単元の配列については、複数の「Lesson」の間に「Let's Check」を設定し、自分の成長や課題を振り返りながら取り組むことで、教科の目標を達成できるような工夫が見られる。
- (2) 英語を使いながら学ぶ外国語学習を展開するために、各単元において、伝え合う目的や場面、状況などに応じ、「Let's Try」「Activity」など、ペアやグループで共に学び合い伝え合う活動を設定することで、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。

地域の実態から、目的や場面、状況などに応じたやり取りについて、各活動の目的を明確に示したり、具体的な表現例を記載したりすることで、自分の考えや気持ちなどを伝え合う児童を育成できるような工夫が見られる。
- (3) 見やすさと読みやすさに配慮されたユニバーサルデザイン書体が用いられており、独自に開発した書体を使用したり、1行あたりの文字数を30字以内にしたたりするなど、児童にとって分かりやすくなるような工夫が見られる。また、デジタル教材においては、語句や表現の音声やリズムを確かめるために、児童が「Song Box」や「Chant Box」を活用することで、学習効果を高める工夫が見られる。

## 選定理由【道徳】

道徳においては、東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、光文書院、学研教育みらいの6者について検討を加えた。

各者とも、学習指導要領「小学校特別の教科 道徳」の目標である「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことや、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて編集がなされている。

本地区の児童の実態は、よさとして友だちの長所を認め、他者を思いやる行動ができ、係や当番、ボランティア活動などに積極的に取り組み、勤労・奉仕の心をもっている児童が多い。

しかし、課題として自分の考えを伝えたり、他者の考えを受け入れたりして、主体的に行動に移すことが苦手であり、自分のよさに気付いている児童が少なく、自己肯定感が低い傾向が見られるとの報告が専門委員からあった。

本地区の児童の課題を解決する観点から協議した結果、自分自身や人との関わりについて、関連する題材を学期ごとに配置することで、互いに理解し、認め合う心を育むための学習を集中的に行うことができるような工夫が、日本文教出版の教科用図書に見られたため、本採択地区協議会においては、日本文教出版の教科用図書が適切であると選定した。

なお、日本文教出版の教科用図書の特徴は、次のような点である。

- (1) 道徳科の目標を達成するために、例えば、高学年で「友情、信頼」「国際理解、国際親善」等の補助教材（ふろく）を設けるなど、児童の実態を考慮した指導の充実につながるような構成・配列の工夫が見られる。
- (2) 内容や指導の充実については、巻頭に「道徳の学び方」を設け、学び方の基本を理解させたり、教材全体への見通しをもたせ、問題意識を高めさせたりすることで、主体的に自分との関わりで考えさせることができるような工夫が見られる。また、別冊「道徳ノート」や教材と関連した内容を取り上げた「心のベンチ」を設定するなど、自分の考えを広げさせたり、多様な価値観に触れさせたりすることで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。

地域の実態から、自分自身や人との関わりに関することについて、関連する題材をまとめて学期ごとに配置することで、互いに理解し、認め合う心を育むための学習を集中的に行うことができるような工夫が見られる。

- (3) 利便性の工夫については、教材の文頭に主な登場人物の紹介や内容に沿ったリード文を設けることで、児童の教材内容についての理解を助け、内容をイメージしながら考えたり話し合ったりすることができるような工夫が見られる。